

- ・市のイベントが各担当課で行われているが、「小さな収穫祭」や、まめまめマーケット等民間のイベントと一緒に開催するなど、横の連携ができればいいと感じる。

- ・「きくる」に集まる高校生も多い。高校生のみならずにも意見を聞いて、地域の活性化につなげていくことも大切。

- ・外国人は定住する方も多いので賑わいづくりに参加して欲しい。

- ・「菊川駅→赤レンガ倉庫→商店街→きくる広場→きくる」をつなげる。市民が憩い、楽しむ、賑わいのエリアを創る。特に文化活動による創作、展示、発表会やライブ、公演、その練習のできる場として親しみやすさを生み出すことで人が集まるのでは。

〈議会や行政に知っておいてほしいことや要望はありますか?〉

- ・イベント等がバッティングしないよう、市の行事を一覧にした年間計画が必要。賑わいづくりにおいての行政の役割は、市民活動を支えること。

- ・この研究会を公開すれば、菊川市が頑張っている姿をアピールできる。市民に理解され、参加者も増えるのでは。

- ・駅前通りはきれいだが、分散しているせいかイベントが少ない。市が声掛けをして、色々な団体が新しいイベントを作って、内から賑わうことが、最初の一步になるのではないかと。

★★「小さな収穫祭」とは

東館を核とした賑わいづくりを目的に、小笠高校3年生の有志12人が企画した市内初の取組み。7月11日(土)・18日(土)の2日間、東館「きくる」で生徒手作りのジャム、市内の農作物や卵等が販売され、多くの人が訪れました。販売と併せて農業の魅力や楽しさを、生徒の目線で来場者に発信することで、菊川の街中に「にぎわい」が生まれました。



7月11日の「小さな収穫祭」のようす

- ・市外や県外に出て行った人も、魅力があれば戻ってくる。地域を理解すること、市民を流出させないこと、地域の企業に留まるような施策が重要。

- ・町部地区は区画整理により800戸あった住宅が半減。まだまだ空き地がある。店舗誘致や住宅を増やす取組みを期待する。

ご協力ありがとうございました。

〈取材協力〉

三浦忠司さん、齊藤奈津子さん、植平充彦さん、佐藤望さん、高塚圭太さん、白畑達徳さん、財津由記さん、大橋隆夫さん、笠原活世さん、飯倉清太さん

